結納の儀式において、また結婚後のお祝い事の為の ふろしき・ふくさ・広蓋（ひろぶた）の使い方

新郎側

結納の場合

結納の形式は地方によって異なりますが、贈る側（通常男性側）の形式で行うのが良いでしょう。場合によっては、女性側の形式に合わせる心づかいも必要です。ここでは、関西地方の一般的な形式をもとに簡単に説明します。

結納は、お二人が結ばれるおめでたい儀式ですから、吉日を選んだうえ、正しい作法でおこないたいものです。とくに「ふくさ」は、それによって調度品の全体や、家柄などを表すものだけに、大きな意味をもっています。

まず、結納飾りと、その箱を包む大判ふろしきに目録、家族書、親族書、それにお家用の紋入りの広蓋、ふくさ、ふろしき、そして使者（仲人）へのお礼のために切手盆を用意します。

次に目録、家族書、親族書をのせた片木（へぎ）盆を広蓋にのせ（写❶・❷）、結納飾りと一緒に床の間の前に並べておきます。これに、結納金（小袖料、清酒料、松魚料）を加えることもあります。

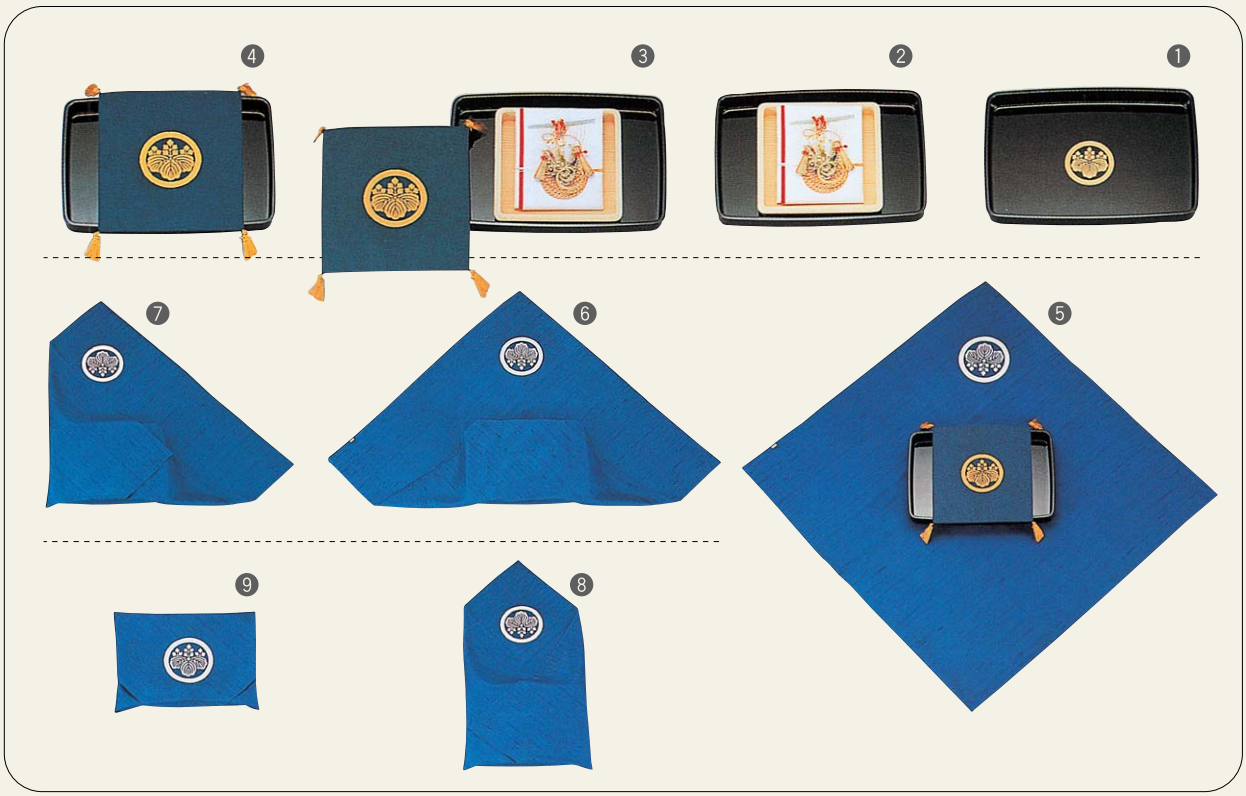
使者には上座に座ってもらい、一同で挨拶を交わします。この後、写❷の状態で、広蓋の向きが使者に対して正面になるように、目録をさし出し、確認が済んだところで、写❷の広蓋の上に、必ず紋が表になるように、家紋入りふくさをかけます。（写❸・❹）

写❹を家紋入りふろしきで包みます。包み方は平包みで、まず広げたふろしきの中央に、広蓋をのせます。（写❺）

最初に手前、次に左、右、奥の順に重ねていきます。（写❻・❼・❽）

このとき、紋が表の中央にくるように整えながら包むように注意してください。

包み終えたら（写❾）、結納飾りと一緒に使者に託して新婦側へ届けてもらいます。結納飾りは箱に入れて、唐草模様のふろしきか、家紋入りのふろしきを使って包みます。



台付ふくさの扱い方

慶事の場合

①慶事の場合は右包みです。ツメを右側にして、金封をのせてください。

②このとき台は朱色側です。まず、左側を折りたたんでください。

③次に上側を折り重ねます。

④さらに、下側を折り重ねてください。

⑤最後に、右側を折り重ねます。右が上になることから、右包みといいます。

弔事の場合

①弔事の場合は左包みです。ツメを左側にして、金封をのせてください。

②このとき台は鼠色側です。まず、右側を折りたたんでください。

③次に下側を折り重ねます。

④さらに、上側を折り重ねてください。

⑤最後に、左側を折り重ねます。左が上になることから、左包みといいます。